

平成 30 年度 すこやかメールマガジン 第 618 号【読書週間】11 月 1 日配信

先日、「岩手山に初冠雪」とのニュースが聞かれ、これから季節は秋から冬へと駆け足で進んでいくようです。近頃は、温かい飲み物とストーブが恋しくなってきました。

さて、「ホッと一息 本と一息」という標語を掲げ、今年も「読書週間」が 10 月 27 日から 11 月 9 日まで展開されています。

この「読書週間」は、終戦から 2 年後の 1947（昭和 22）年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力を合わせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第 1 回「読書週間」が開かれました。内容としては、各地で講演会や本に関する展示会が開かれたり、読書運動を紹介する番組が作られたりしました。それから 70 年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界の中でも特に「本を読む国民」の国となりました。（「読書推進運動協議会」ホームページより）

岩手県には、昭和 40 年から県民総ぐるみで取組む教育運動「教育振興運動」があるわけですが、その初期の活動の中に「子どもの土産は本にしよう」という運動があったそうです。その成果がまとめられている冊子「いわての教育振興のために」（昭和 49 年岩手県教育委員会）の中には、実際に家で買ってもらった本の冊数や出稼ぎのお父さん 39 歳の当時の手記も掲載されています（昭和 49 年 軽米町立笹渡小学校実践区）。以下紹介します。

「お父さん、今度帰ってくるときは、みやげに本買って来て」と子どもに言われて、びくっとしました。・・・（中略）その後親子読書会に出席して、私は「読書って、こんなにも感動するものなのかと、胸をしめつけ、頭の中にジーンとしみるものを知りました」「毎日の親子読書でも、長男と私の心のつながりが、少しずつ、強く大きくなってきて、心が太ったような気がするようになりました」「私の家は、貧乏ですが、今は人間らしい、はりのある生活をしています。私は、親子読書で目を開きました」と結ばれています。

これを読んでふと、自分の幼い頃を思い出しました。父は、「猛烈サラリーマン」と呼ばれた時代の人で、出張から帰ってくるのは、月に数えるほどしかありませんでした。「おもちゃは、買ってやれんが、本なら買って来てやろう」と言い、出張のたびに一冊ずつ買ってきてくれるようになりました。日本の昔話、お化け話、笑い話・・・今となっては、よく子どもの興味や読書力を把握していたものだと感心します。

そんな出来事もあり私は、久しぶりに温かいココアでもいれて、家族で本を読む時間を共有してみたくなりました。

読者の皆さんだったら、自分のために、あるいは家族と一緒に、どんな本を手にしなが
ら一息つくのでしょうか。・・・【Ｙ】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉
しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしくお願ひします(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索